

令和7年度第2回ぎふ清流文化プラザ評価員会議 議事要旨

○日時 : 令和8年3月4日(水) 10:30~12:00

○場所 : ぎふ清流文化プラザ 4階 第3練習室

○出席者 :

【評価員】

市川篤丸、高橋順、谷口真由美、田村禎章、土本真弓、仲田久美子

【指定管理者】

常務理事 杉下尚、理事兼障がい者芸術文化支援センター長 田中誠司、事務局長 田上雅治、他職員4名

【事務局(岐阜県文化創造課)】

管理調整監 増田久美子、文化施設係長、文化振興係長、文化施設係担当

【令和7年度第3四半期までの指定管理業務報告に対する意見・評価】

<評価員>

- ・カフェの運営や庭園の花壇等の維持管理に関して、障がい者の就労支援への積極的な取組に感謝申し上げます。カフェの運営・経営状況はどうなっているか。また庭園の管理に対しては、運営費補助等があるのか。

<指定管理者>

- ・カフェは、収益が出ていると聞いており、赤字経営になっていないことを確認している。庭園については、委託契約を締結し、人件費のほか、苗の購入経費等を含めて委託料を支払っている。

<評価員>

- ・SNSによる広報ということだが、若い世代への発信についてどのように考えているか。

<指定管理者>

- ・これまで、若い方への周知が行き届かないところがあったため、令和7年度からぎふ清流文化プラザとして、インスタグラムとXに事業告知や報告、出演者からの動画メッセージ等を掲載し発信している。今後もSNSでの発信に力を入れていく予定。

<評価員>

- ・視聴者の意向等も把握しながら進めていっていただきたい。

<評価員>

- ・指定管理者としての自主企画事業、その他自主事業（財団としての事業、受託事業等）があるが、アーティストや地元出演団体の選定等、財団がおおもとの企画をしているのはどの事業部分か。
- ・公演当日のチケットのもぎりや場内案内等いわゆるオモテ方は、どう運営しているか。

<指定管理者>

- ・県民のニーズ、出演者の意向等を踏まえ、自主企画事業及び自主事業ともに財団で企画し実施している。
- ・当日のオモテ回りは職員で対応することもあるが、委託によりスタッフを配置している。

<評価員>

- ・障がい者芸術文化振興事業やリスト音楽院事業などは、県からの委託実施か。

<指定管理者>

- ・指定管理事業、補助金・交付金事業、委託事業の大きく分けて3本柱になっており、障がい者事業やリスト音楽院は補助金を受けて実施している。なお、自主企画事業は、長良川ホールならではの特性を活かした楽しみ方ができるような企画を実施している。

<評価員>

- ・R6年度は国民文化祭事業等で数多くの事業を実施されたと思うが、R7年度も多数の事業を展開されており、また、稼働率が高く素晴らしいことだと思う。
- ・施設管理においても、30年経過する建物の管理については、修繕も多く大変だと思う。修繕費用について県と分担があるとの説明があったが、緊急性の事情と合わせて再度説明をお願いしたい。

<指定管理者>

- ・60万円以上の修繕は県が対応することとなっている。突然の不具合や安全安心、事故防止の観点で緊急性の高かった3件の修繕について、60万円以上であったが財団で実施した。指定管理料から支出し、県からの補填はない。

<評価員>

- ・来館者が年間20万人とのことで、安全の観点から迅速に修繕対応されていることが分か

った。

<評価員>

- ・地歌舞伎の公演などで、地元事業者等による物販が行われているが、その際財団として手数料等を徴収しているか。
- ・また、エントランスでの福祉事業者の販売について、障がい者支援の観点から場所を無料で提供しているのか。

<指定管理者>

- ・地域貢献の観点から、出店いただくための使用料や販売の手数料等はいただいております、物販の売上は出店業者にそのまま反映されている。福祉事業者の販売についても同様である。

【令和8年度事業計画に対する意見・評価】

<評価員>

- ・それぞれの公演に関して、分析して次の企画につなげるための指標を設定しているか。また事業を企画する際の指標（柱）はあるか。
- ・利用者数が多いのか少ないのか判断できない。他の施設と比較するなどしているのか。

<指定管理者>

- ・自主企画事業は①清流の国ぎふ文化祭レガシー創造事業、②障がい者芸術文化応援事業③清流プレミアムセレクション事業の3本柱にもとづき、他の補助事業や委託事業の企画や基本方針であるDX、高齢者、子育て、障がい者支援という視点のほか、出演者・団体の条件やスケジュールなども加味しながら企画している。1つ1つの事業に対して数値化した指標は持ちあわせていない。アンケートを実施し、次年度事業に活かしている。
- ・複合施設としての類似施設がないため利用者数の比較は難しい。貸館の稼働率等を踏まえ年間20万人を目標としているところ。

<評価員>

- ・紙媒体の広告物について、余らせることはないか。

<指定管理者>

- ・事前に施設や学校等の配布先にどの程度配布するか広報計画を立てたうえで、必要枚数分を作成している。